

R2年12月発行

みくまの支援学校支援部

し え ん 便 り

巡回相談の窓口から～内面に寄り添う3つのメソッド～

みくまの支援学校では、4つの取り組みを推進しており、その1つに児童生徒の内面に寄り添った支援があります。今回の支援日よりでは、巡回相談の実践の中で気付いた内面に寄り添うための3つの方法とそのメリットを紹介したいと思います。

巡回相談とは、地域の学校に、我々が訪問して行う相談のことで、先生方との相談を通して子供を間接的に支援するというものです。昨年取り組んだ巡回相談利用後のアンケート調査では、次のような結果となりました。

Q1 今回の巡回相談は役に立ちましたか。	⇒役に立った 100%
Q2 相談したいことは話せましたか。	⇒話せた 84% まあ話せた 16%
Q3 実態に応じたアドバイスは聞けましたか。	⇒聞けた 94% まあ聞けた 4%
Q4 今後の支援に活かそうですか。	⇒活かそう 100%

この結果を振り返った時、「役に立っているんだ。」「相談して良かったと思ってもらえたんだ。」という安心感を覚えました。そして何が良かったのか考えた時、気付いたのが「聴く」「共感する」「質問する」ということでした。

その1 “しっかり「聴く」”



うん、うん

「聞く」「聴く」「訊く」3つの「きく」の違いはご存じですか。

「聞く」⇒Hear 「聴く」⇒Listen 「訊く」⇒Ask

英語にしてみると、その違いが分かりやすくなりますね。

しっかりと話を聴いてもらっているという実感は、安心感につながります。

では、しっかり聴くためにはどうすればいいのでしょうか。

しっかり聴いてもらっているという実感を持ってもらうためには、

「聴く：話す＝8：2」の割合になるように話を聴くことが大切だそうです。また、しっかり「聴く」には、相手の言動やしぐさを真似るミラーリングや相手の発した言葉や感情を同じように表現するバックトラッキングなどを使うことも有効です。あと、話の聴

き方も重要です。目の前で腕組みなんかしていたら威圧感を与えてしまいますね。

児童生徒と関わる時、保護者の方とお話する時など、内面に寄り添うために、まずはしっかり「聴く」ことが重要です。

その2 “共感する”

ほんと～



そうなんや～

まずは、問題！共感しているのはAさん、Bさんどっちでしょうか？

「この前、近くのスーパーに新しくできたパンケーキを食べに行ったら、フワフワでとっても美味しかったわー！」

Aさん

「そうやる。私も昨日いちごのパンケーキ食べてきた。パンケーキって美味しいよね。」

Bさん

「そうなん。美味しそうに話してるねー。よっぽど美味しかったんやね。」

答えはBさんです。

共感とは、『他者の感情を共有すること』で、Aさんは、『同じ意見・価値観であること』を話しているので同感になります。共感することで「わたしのことを分かってくれている」という信用が得られ、この後の話し合いがスムーズになります。

その3 “質問する”

なにす～



おにごっこ～

共感しながらしっかり話を聴くことで、安心感が得られラポール※が形成されているはず。巡回相談では、いよいよ支援につなげるための作戦会議の始まりといった感じでしょうか。

「授業中、どうして体がクネクネしちゃうんでしょうね。」「どんな教科でも同じですか？」「休憩時間はどのように過ごしていますか？」「体育の授業では、うまく体は動かせていますか？」質問をきっかけに様々な場面の子どもの様子を思い浮かべ、話をする中で「気になる子」から「困っている子」に思考がリセットされていきます。そして、話し合いの中で思い浮かべた子どもの姿からその要因や支援方法について自ら気付くこともたくさんあるようです。

質問には、ネガティブ質問とポジティブ質問があるそうです。「どうしてしたの？」「どうしてできないの？」と質問されるよりも「どうしたいの？」「どうしたらできると思う？」と尋ねた方が子どもの声は聴けそうですね。

※ラポールとは、心理学の用語で信頼関係のことです。受け入れてもらっている安心感は、何でも話せる安心感につながりますね。

これからもコーディネーターとして小さな“気づき”を丁寧に拾い上げみなさんと共有できる活動を心がけていきたいと思っております。良いお年をお迎えください。

